



南町小だより

つよく かしく あたたく

平成28年9月30日

校長 福田 俊彦

みんなで決め、みんなで活動することから

校長 福田 俊彦

みんなで創る南町小学校の運動会を控え、子供たちには、一人一人の心をつなげ、力を合わせている姿を見ることが出来ます。当日は、ご来場の皆様に、子供たちが主役となる運動会をお楽しみいただけることと思います。運動会について、子供たちに話していることです。「最後まで自分の力を出すこと。」「友達の気持ちを元気にする応援をすること。」「支えてくださった多くの方々へ感謝の気持ちをもつこと。」「みんなの子供として、ご声援を賜りますようお願いをいたします。

時間割の中に「学級会」があります。子供たちが、よりよい学校生活を創り、よりよい友達関係を築いていく学習です。話し合ったことは、「2学期、もっと仲良くなろう会を開こう」です。このことを話し合う理由にすばらしいものがありました。「2年生の生活がもうすぐ半年たちます。今は、運動会に向けてクラスのみんなでがんばることができています。だから、2学期ももっと仲良くなろう会を開けば、みんなが今よりも仲良くなって、もっと楽しい生活をする事ができると思います。そうすれば、2学期もクラスのみんなで力を合わせていろいろなことに挑戦して、がんばることができると思うからです。」どうでしょうか。単にお楽しみ会をするのではなく、今の自分たちの生活を見つめ、みんなで会を開くことで、今よりもよりよい学級生活を創り、よりよい友達との関わりを築きたいという子供の思いが伝わってきませんか。

話し合っている場面で次のようなことがありました。何をするかでドッチボールの賛成意見が続いた時です。「ボールを当てられた人がけがをしたら、当てた人とけんかになって仲良くなれない。」心配なことです。このことについて、周りの友達が解決する方法を出したのです。「コートを広くする。」「ボールを柔らかいものにする。」「やさしく投げる。」等。これらは、子供のアイデアです。子供の中から生まれてきた工夫です。自分たちの問題を自分たちの中で解決する力の基礎です。更に、もっと仲良くなろう会を盛り上げる方法として「罰ゲーム」が出ました。これも子供のアイデアです。ある子が言いました。「罰ゲームをするといやな思いをする人が出る。」提案理由の内容を考えたのでしょう。会をよりよくしようとする子供たちの関わりです。

子供たちは、自分の生活を見つめ、よりよくしたいと感じています。その機会を設け、その経験を積み重ねていくこと、つまり、「みんなで話し合い、決めたことをしていく経験」は、一人一人の子供の心を育てていきます。人との関わり方を身に付けていきます。お子さんから「学級会」について、話を聞いていただければ幸いです。

今後とも保護者、地域の皆様には、南町小学校の子供をみんなの子供として見守っていただけますようお願いをいたします。